

行政視察報告書

所属委員会	産業建設委員会	委員氏名	藤森 弘
行政視察の名称	令和5年度【産業建設委員会】行政視察		
日程	令和5年11月14日(火)～11月16日(木) (3日間)		
視察都市名等	(1)愛知県名古屋市：トヨタ産業技術記念館 (2)愛知県豊田市：鞍ヶ池公園 (3)静岡県浜松市：公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューロー (4)静岡県浜松市：ヤマハ企業ミュージアム イノベーションロード (5)静岡県静岡市：静岡市役所静岡庁舎本館、城北公園		

視察内容・感想等

(1)愛知県名古屋市：トヨタ産業技術記念館



① 視察先での特記事項（当日の質疑応答事項等）

「機械は人間と一体となって完全になる」…。

豊田自動織機製作所内に自動車部を立ち上げ、日本の国産自動車事業の黎明期を支えた豊田喜一郎（創業者・豊田佐吉の長男）の言葉である。

かつての豊田紡績株式会社本社工場跡地に設立されたトヨタ産業技術記念館は、建設史的にも貴重な赤レンガの建物を産業遺産として保存・活用したもので、近代日本の発展を支えた繊維工業の紡績機械を展示した「繊維機械館」と国産自動車技術の変遷を展示した「自動車館」とがあった。その一角には「豊田佐吉の年譜」を紹介した展示室もあった。

② 評価、感想

本社工場跡地ということもあって、当初想像していたよりも何倍も広い敷地面積に驚きを隠せず、展示スペースの広さには圧倒された。「研究と創造の精神」と「モノづくり」の大切さを次世代に継承するために、紡績機械工業から国産自動車工業へと発展を遂げた足跡が非常に分かりやすく展示されており、大変勉強になった。

③ 岡谷市政に反映すべき点は何か

岡谷市も生糸による製糸産業から超精密機械工業へと発展を遂げた歴史があり、「モノづくりのまち」としての自負がある。岡谷市には「岡谷蚕糸博物館シルクファクトおかや」があるが、製糸工業から後の産業発展の系譜をたどる「岡谷市産業技術歴史記念館」があれば産業観光拠点になり得るのではないかと、思った。

④ 岡谷市政として取り組んだ場合の課題、問題点

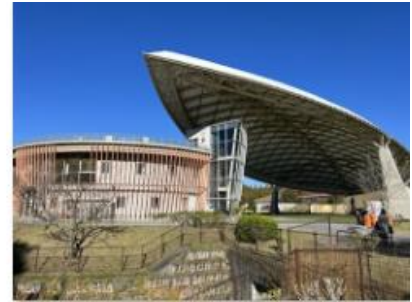
岡谷市には産業振興の拠点施設として「テクノプラザおかや」があり、単発の展示会、講演会、異業種交流イベントを開催しているが、産業観光の誘客拠点とはなり得ていない。市役所の旧庁舎を「産業技術歴史記念館」にして観光名所にしたらどうだろうか。

⑤ 視察市から受けたまち全体、あるいは市政全般の印象等で特記事項

産業発展の系譜を知る歴史遺産が観光産業の礎になることを名古屋市は教えてくれた。

行政視察報告書

(2) 愛知県豊田市：鞍ヶ池公園



① 視察先での特記事項（当日の質疑応答事項等）



鞍ヶ池公園は「自然に憩うファミリーパーク」として豊田市の市街地東部にある。鞍ヶ池は灌漑（かんがい）目的で人工的につくられ“ため池”ではあるが、起伏に富んだ地形と美しい緑と水に包まれた“オアシス”といった印象だった。

そこには全天候型の大屋根を備えたプレイハウス（写真右上）、アスレチック・アドベンチャー遊具、観光牧場、植物園、ミニ動物園、キャンプ場、宿泊施設（モバイルハウス）、結婚式場、展望台、ウォーキング遊歩道などの施設が点在しており、子供から高齢者まで幅広く「自然体験型&保養健康型観光」を楽しむことができる開放的で魅力的な多目的公園になっていた。

移動手段として立ち乗り自動二輪車のセグウェイ（写真左）を楽しむこともでき、私たちが実際に試乗させてもらった。

中でも目を引いたのは湖畔に隣接したカフェの「スターバックス」で、その運営方法について質問が集中した。公園緑地つかう課の担当職員の話のを要約すると以下の通り。

+++++

鞍ヶ池公園は、指定管理制度、公募設置管理制度（Park-PFI）、公設民営制度（DB方式：Design Build）の三位一体で「みどりの基本計画」に基づいて運営しており、民間活力を積極的に導入している。

指定管理制度は、公園区域外の隣接緑地を含んだ公園外縁部が中心で、受付案内業務、植栽の維持管理、警備業務、清掃業務、イベントの企画運営、交通誘導など従来型の管理方法のこと。

公募設置管理制度（Park-PFI）は、スターバックスが典型的な事例で、場所のみを提供した一般公募で民間資本を導入した管理方法のこと。建物の建設費用や経営資金はすべて民間資本で行う。

公設民営制度（DB方式）は、レストラン、ストア、キャンプデッキ、宿泊施設などの建設費用は公的資金で賄い、経営は民営に任せる管理方法のこと。

+++++

② 評価、感想

指定管理制度、Park-PFI、DB方式の三位一体での運営管理が見事に相乗効果をもたらしており、公園を活用した観光産業の先進事例としてうらやましい限りだった。

③ 岡谷市政に反映すべき点は何か

指定管理のみに固執するのではなく、Park-PFIやDB方式をもっと積極的に活用して民間活力を導入すべきだろう。

④ 岡谷市政として取り組んだ場合の課題、問題点

職員の知識不足が障壁になっており、担当職員の先進地視察や研修の機会をもっと増やすべきだと思う。

⑤ 視察市から受けたまち全体、あるいは市政全般の印象等で特記事項

「自然資本＝緑と水」を上手に活用した「みどりの基本計画」が素晴らしいと思った。

行政視察報告書

視察内容・感想等

(3) 静岡県浜松市：公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューロー



① 視察先での特記事項（当日の質疑応答事項等）

Q：公益財団法人であることのメリットは？

A：公的目的事業への法人税が非課税になるなど、税制上の優遇措置を受けられる。また、組織名に「公益」と付くと、社団法人やNPO法人などに比べて社会的な信用が格段に高まるメリットがあります。

Q：観光庁のDMO（観光地域づくり法人）の認定を受けるメリットは？

A：観光庁という国のお墨付きがあることで知名度が高まり、安心・安全な団体として認知されるため、企業からの協賛金を得やすくなります。また、観光庁からの「情報支援」「人材支援」「財政支援」の3つの支援を受けられるメリットがあります。

Q：公益財団法人の出資比率は？

A：浜松市と湖西市と他の公的団体など行政出資比率が53%、金融機関、旅行会社、宿泊施設などの民間出資比率が47%になります。

Q：DMOの経営や運営上のメリットは？

A：最大のメリットは人件費の安さですね。公益財団法人の代表者や専属職員の4名分の人件費は独自で賄う必要がありますが、その他の事務職員11名は市や民間企業からの出向扱いで仕事をしてくれるので、出向職員分の給料は市や企業が払うことになります。加えて公的な補助金を受けやすく、企業からの協賛金も集めやすいメリットは大きいです。

Q：観光協会とDMOの違いは？

A：観光協会は行動原理が事業者視点であるので、行政からの制約が大きく、反対されたら手足を縛られて何もできません。それに対してDMOは行政の垣根を越えた地域の顧客視点で運営しますから、稼ぐ手段やチャンスが格段に高まります。観光庁はDMOを「地域の“稼ぐ力”を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔」と定義しています。

② 評価、感想

地域活性化や観光振興を先導する組織として、DMOの先進事例や魅力を学ぶことができました。DMOのことを知らない人が多いのが残念です。

③ 岡谷市政に反映すべき点は何か

「湖周はひとつ」と考えるならば、二市一町（岡谷市、下諏訪町、諏訪市）の合併ではなく、諏訪湖を観光資源とする「公益財団法人諏訪湖ツーリズムビューロー」の設立や観光庁のDMO認定を真剣に考えるべき時だと思う。

④ 岡谷市政として取り組んだ場合の課題、問題点

行政の“縛り”や“悪しき慣例や前例”に囚われ、新しい地域経営の仕組みを考えたり学んだりしようとする気概が無さ過ぎるのが残念。

⑤ 視察市から受けたまち全体、あるいは市政全般の印象等で特記事項

行政は民間のような営利目的のビジネスはできない、という固定観念が払拭されており、既存の行政の枠を越えた広域圏での公益財団法人を使った観光産業の取り組みに感銘を受けた。

行政視察報告書

視察内容・感想等

(4) 静岡県浜松市：ヤマハ企業ミュージアム イノベーションロード



① 視察先での特記事項（当日の質疑応答事項等）

浜松には数多くの地域資源がありますが、「産業と観光の融合」という視点で見た場合、「産業観光施設」の多さは特筆に値します。エアパーク（航空自衛隊浜松広報館）、スズキ歴史館、浜松市楽器博物館、うなぎパイファクトリーなどがあります。

“ものづくり王国浜松”の魅力を体感しようと、楽器やバイクの技術革新の歴史をたどることができる「ヤマハ企業ミュージアム-イノベーションロード」を選びました。



「楽器展示エリア」では、グランドピアノやギターなど多種多彩な楽器が一堂に展示されていました。普通は「手を触れないでください」という注意書きがあるものですが、ここでは「自由に演奏して下さい」と。見て、触れて楽しめました。



ヤマハが世界に誇る立体音響技術バイリアルによる108.6チャンネルシアター。220°のワイドスクリーン映像と大音響の臨場感が楽しめました。



バーチャル映像と連動した楽器の自動演奏システムに圧倒されました。人形と楽器が奏でるコンサート会場さながらのライブ演奏は最高でした。

② 評価、感想・・・「音を楽しむ器」である楽器の奥深さを体感しました。

③ 岡谷市政に反映すべき点は何か・・・「住んで楽しいまち」には音楽が欠かせません。

④ 岡谷市政として取り組んだ場合の課題、問題点

岡谷市にはカノラホールがありますが十分に活用されているとは言えません。有効活用を考えるためには「指定管理」から脱却した独自企画を考える必要があります。

⑤ 視察市から受けたまち全体、あるいは市政全般の印象等で特記事項

浜名湖と諏訪湖という湖の違いこそあれ、岡谷市が浜松市から学ぶ点は枚挙にいとまがありません。「うなぎの手づかみ観光」や「うなぎの養殖」のことが心に残りました。

行政視察報告書

視察内容・感想等

(5) 静岡県静岡市：静岡市役所静岡庁舎本館、城北公園



① 視察先での特記事項（当日の質疑応答事項等）



午前中に昭和9（1934）年に建設された静岡市役所静岡庁舎本館（左写真：本会議場）を訪れて、Park-PFI（公募設置管理制度）を活用した城北公園の活用事業の説明を受けた。天井から下がる豪華なシャンデリアや壁面のステンドグラスなど壮麗な建造物内で行われた説明会場は独特な空気感で、不可思議な雰囲気は漂い、ある意味で感動的だった。

そして午後には、実際に城北公園に出向き、現地でも詳細な説明を受けた。

城北公園は、JR 静岡駅から北に約 2.5 km の位置にあり、静岡大学の移転跡地利用策として昭和 55 年に開園。中心市街地に隣接する住宅地にあり、「水の広場」（上記中央の写真）、「自由広場」（同左）、「芝生広場」「子供広場」の 4 エリアに分かれている。公園内には静岡市立中央図書館も併設されており、名物の花時計がある。開園から約 40 年が過ぎ、施設の老朽化が進んで駐車場も無いことから、民間活力を導入できる Park-PFI の手法で施設の刷新と利用者の利便性向上を図る目的だったという。

しかし、公園内の一部の樹木を切り倒して駐車場を設置することに市民から異論と抗議運動があり、計画の差し止めを求める行政訴訟に発展して事業はストップ状態だという。また、民間資本によるカフェの公園内設置についても賛否両論があるという。

緑豊かな自然環境に恵まれた従来の憩いの場を守りたい地域住民と、車社会における利便性向上（駐車場設置）やカフェ経営に柔軟な考え方と理解を示す地域住民とに分かれている状況のようだった。

② 評価、感想

自然と人為の調和点をどこに見出すか…。非常に難しい選択問題だが、どちらかに偏るのではなく、両立できるプランが必ずあるはずであり、双方の理解が得られるまで粘り強い対話の積み重ねとプランの練り直しが重要だと思った。

③ 岡谷市政に反映すべき点は何か

「樹木を切る」という行政判断に市民が過敏になって来ているのは岡谷市も同様だ。市側の説明責任を果たすことがこれまで以上に重要になっているように思う。

④ 岡谷市政として取り組んだ場合の課題、問題点

施策決定の過程における市民参加の仕組みが不十分であるように思う。決定後に住民説明会を開いて市側の考えを押し付けるのでは市民は納得しない。合意形成過程における参加民主主義の質が問われているように思う。

⑤ 視察市から受けたまち全体、あるいは市政全般の印象等で特記事項

都市化の進展に伴い、緑地保護の住民意識がかつてなく高まっている現状を目の当たりにすることになった。静岡市の訴訟問題は決して他人事ではないと思う。

行政視察報告書

視察内容・感想等



帰路の途中で立ち寄った三保の松原から撮影した富士山（撮影：藤森 弘）